

## 大豆新品種「フクユタカ」について

大庭寅雄・岩田岩保・\*竹崎 力・\*工藤洋男・異儀田和典・\*小代寛正  
 原 正紀・\*池田 稔・高柳 繁・\*下津盛昌・\*志賀鑑昭・\*橋本篤一  
 \*富田貞光 (九州農業試験場・\*熊本県農業試験場)

OHBA, T., I. IWATA, C. TAKEZAKI, N. KUDO, K. IGITA, T. SHODAI, M. HARA, M. IKEDA, S. TAKAYANAGI, M. SHIMOTSU, K. SHIGA, T. HASHIMOTO and S. TOMITA:  
 A New Soybean Cultivar "FUKUYUTAKA"

### 1. 来歴及び育成経過

本品種は、IVc型の良質多収を育成目標に1960年、熊本県農業試験場阿蘇分場(大豆育成指定試験地)が「岡大豆」を母とし、「白大豆3号」を父として人工交配し、F<sub>4</sub>までは集団選抜を続け、F<sub>5</sub>で個体選抜を行い、以後系統選抜を重ねて育成したもので、F<sub>9</sub>(1969)で「九州86号」の地方系統名を付した。

1971年F<sub>11</sub>からは九州農業試験場作物第二部作物第3研究室がこの育成を引き継ぎ、以後、原々種栽培により系統維持を図りながら、生産力検定、特性検定及び系統適応性検定等の試験を重ね、また、関係府県に配布して地方適否を確かめてきた。1979年度において雑種第19代である。1980年6月、本品種の優秀性が認められ、「だいち農林73号」として登録、「フクユタカ」と命名された。

### 2. 特性の概要

1) 形態的特性、本品種はアキヨシ及びアキセンゴクに比べて短茎で、節数が少なく、葉は比較的太い。分枝はやや多いが枝張りの中位で、まとまりの良い草状を示す。花色は紫、熟莢色は淡褐、毛茸は白でやや密生している。子実は球形に近い中ないし中の大粒で、粒ぞろいが良い。また、粒色は黄白、臍色は淡褐で、種皮の亀裂も一般に少なく、品質は非常に良好である。

2) 生態的特性、本品種の成熟期は育成地では10月末から11月初めで、アキヨシより5日、アキセンゴクより12日前後早く、秋大豆としては中生の早に属する。耐倒伏性はアキセンゴク並でアキヨシより明らかに強い。特性検定試験の結果では、ダイズウイルス病抵抗性程度は自然発生条件での検定で中位で、褐斑粒の発生は極少である(愛媛県農試)。紫斑粒の発生もアキヨシ並に少ない(福岡県農試会津支場)。サビ病及び葉焼病に対しては、やや弱いようである。ネコブ及びシスト両センチュウにはいずれにも弱い(鹿児島県及び栃木県農試)。

本品種は着莢性が良好で、九州農試の黒色火山灰土壌畑での過去6年間の平均収量はアキヨシ対比で103%、アキセンゴク対比で106%である。九州北部地帯ではこれより高く、福岡県農試畑作試験地(開田地の転換畑初～2年目)での4年間の平均収量は、アキセンゴク対比

で110%を示し、また佐賀県農試(転換畑)での3年間の平均収量はホウギョク対比で129%を示す。

その他の県の試作成績では、九州、四国、近畿にまたがる8場所で対標収量比が115%を越えている。

### 3. 栽培適地及び奨励品種採用県

本品種は九州北部平地地の水田転換畑に最も良く適応する。このほか、四国の北部地方でも好成績を示す。今年の奨励品種採用県は福岡及び佐賀の両県である。

### 4. 栽培上の注意

本品種は適期播きでの密植適応性は高くないので、過度の密植にならないように注意する。晩播適応性はアキセンゴクより高いが、アキヨシにはやや劣る。適期より2週間前後晩播をする場合は、栽植本数を適期播きの2～3倍にする必要がある。また、葉焼病の発生しやすい地区では、播種前に種子消毒を励行し、連作はなるべく避けるようにする。

### 5. 命名の由来

北九州地方に最も良く適応し、子実が豊満で品質が良好であることを表す。

第1表 フクユタカの主要特性

| 調査項目          | 九州農試(育成地) |       | 福岡県農試畑作試験地 |        | 佐賀県農試     |       |
|---------------|-----------|-------|------------|--------|-----------|-------|
|               | フクユタカ     | アキヨシ  | フクユタカ      | アキセンゴク | フクユタカ     | ホウギョク |
| 開花期(月日)       | 8.24      | 8.26  | 8.19       | 8.29   | 8.23      | 8.31  |
| 成熟期(月日)       | 10.30     | 11.4  | 10.29      | 11.15  | 11.2      | 11.18 |
| 生育日数(日)       | 105       | 111   | 114        | 122    | 112       | 128   |
| 茎長(cm)        | 53        | 56    | 59         | 66     | 74        | 92    |
| 主茎節数          | 13.1      | 14.3  | 14.6       | 17.8   | 14.7      | 18.7  |
| 分枝数(本)        | 4.1       | 4.8   | 4.7        | 3.2    | 4.4       | 2.8   |
| 倒伏程度          | 微         | 少     | 微          | 少      | 中         | 中     |
| 収量(kg/a)      | 26.3      | 25.6  | 28.4       | 25.8   | 29.6      | 23.1  |
| 同上対標比(%)      | (103)     | (100) | (110)      | (100)  | (129)     | (100) |
| 百粒重(g)        | 25.9      | 21.9  | 26.6       | 18.9   | 27.1      | 18.8  |
| 粒色            | 黄白        | 黄白    | 黄白         | 黄白     | 黄白        | 黄白    |
| 臍色            | 淡褐        | 淡褐    | 淡褐         | 褐      | 淡褐        | 褐     |
| 種皮の亀裂         | 少         | 少     | —          | —      | 微         | 微     |
| 品質            | 上         | 中     | 上の中        | 中の中    | 上の中       | 中の上   |
| *粗蛋白質含量(%/乾物) | 41.5      | 41.4  | 41.4       | 41.5   | —         | —     |
| *粗脂肪含量(%/乾物)  | 20.9      | 20.7  | 21.3       | 20.1   | —         | —     |
| 上記試験年次        | 1974~1979 |       | 1974~1979  |        | 1977~1979 |       |
| 播種月日(平均)      | 7.17      |       | 7.7        |        | 7.13      |       |
| 栽植密度(cm)      | 60×15 1本立 |       | 60×15 1本立  |        | 70×20 2本立 |       |

※北海道農試作物第1部作物第1研究室分析